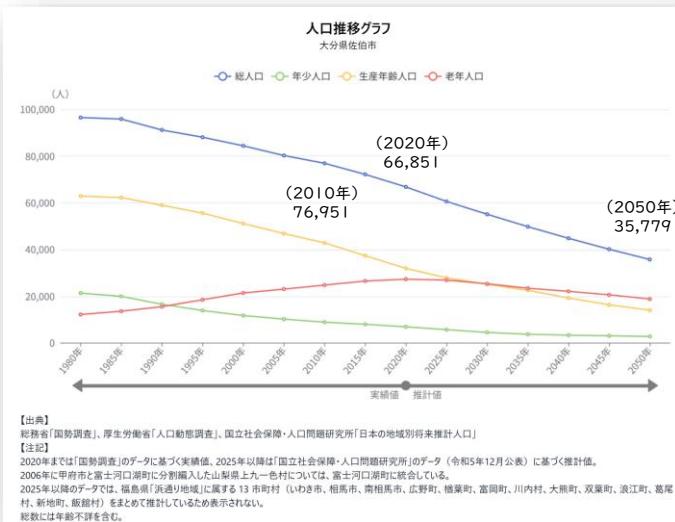


RESAS

を分析してみよう

大分県
佐伯市

人口



* 人口マップ→人口構成分析→人口推移

人口ピラミッド

現在と将来の年齢別人口構成を示したグラフである。2050年の人口ピラミッドは高齢層が多い「つぼ型」である。老年人口の割合をみると、2020年の40.91%から2050年には52.74%まで増加する。高齢者の中でも「女性90~」が多い特徴がある。また、生産年齢人口は2020年の47.84%から39.34%まで減少する見込みである。

RESAS(地域経済分析システム)は、地域経済に関する様々なデータ(産業の強み、人の流れ、人口動態など)をグラフで分かりやすく「見える化(可視化)」したシステムです。データに基づいた地域の実情を把握・分析できるので、ぜひ参考にしてみてください。

<https://resas.go.jp>

RESAS

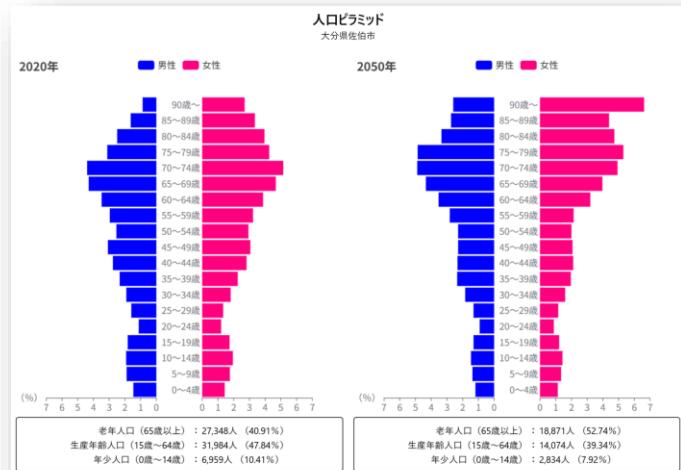


年齢別人口推移

2020年の人口は総人口66,851人。10年前(2010年)の76,951人と13.1%減少している。2050年にかけて減少傾向が続く見込みである。

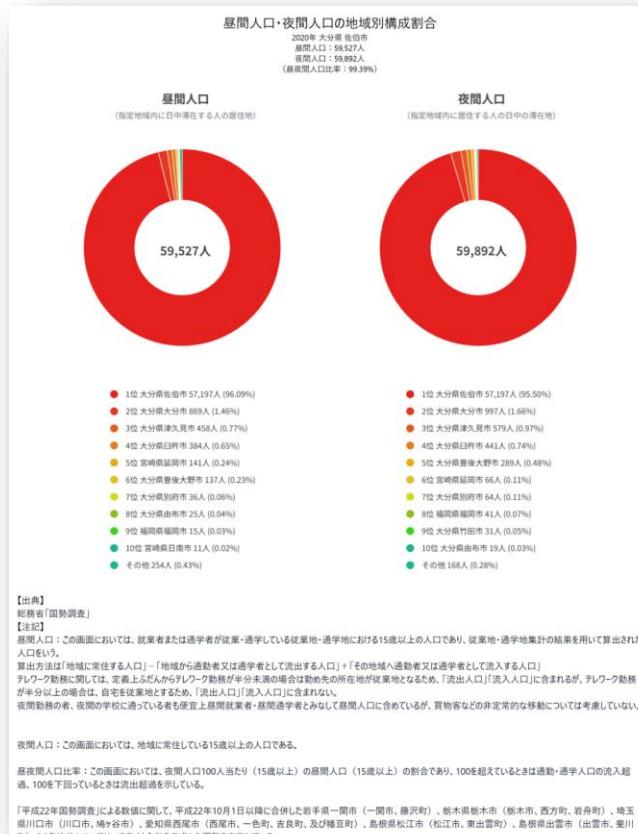
また、年齢別に将来の傾向をみると、年少人口や生産年齢人口は減少傾向、老年人口は横ばいから微減傾向にあり、老年人口割合が増加する傾向にある。少子高齢化が一層進んでいく地域である。

* 年少人口は15歳未満、生産年齢人口は15~64歳、老年人口は65歳以上をさす。



* 人口マップ→人口構成分析→人口ピラミッド

人口



滯在人口 (2020年)

昼間人口と夜間人口を地域別構成割合で示したグラフである。

佐伯市の昼間人口は59,527人、夜間人口は59,892人である。昼夜間人口比率99.39%と、通勤・通学等での人口流出が多いことがわかる。昼夜共に滞在人口の中で、もっとも多い居住地は佐伯市である。

*15歳以上の人口を対象として算出している

*人口マップ→通勤通学人口分析→地域間流動



流入・流出者数 (2020年)

佐伯市内外への流入・流出者数を年齢階級別構成割合で示したグラフである。流出超過数が374人と市外への流出者が多い地域であることがわかる。また、流入者数は45～49歳、流出者数は15～19歳がそれぞれもっとも多くなっている。

人口

年齢階級別純移動数時系列分析

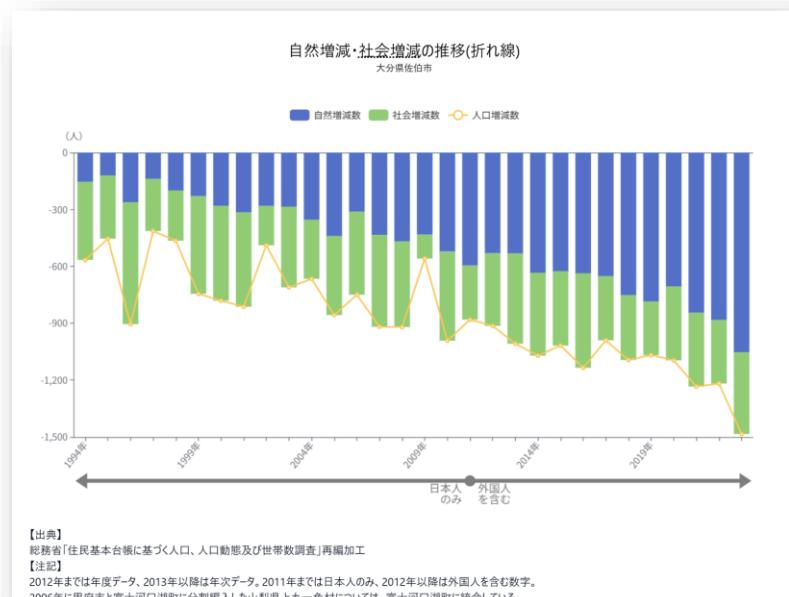
年齢階級別純移動数の時系列推移は、主に大学進学時(15~19歳→20~24歳)に人口が流出し、就職時(20~24歳→25~29歳)にかけて人口が流入する。結婚や出産時(25~29歳→30~34歳)に再度、人口が流出するが、中高齢層にかけて移動数は減少傾向にあり、定住傾向が強い地域であると考えられる。



*人口マップ→社会増減分析→人口移動

自然増減・社会増減の推移

自然増減数(出生数から死亡数を引いた値)と社会増減数(転入者数から転出者数を差し引いた数値)の推移を示したグラフである。近年、自然減・社会減の傾向が強く、全体の人口としては減少している。



*人口マップ→人口増減分析→グラフ

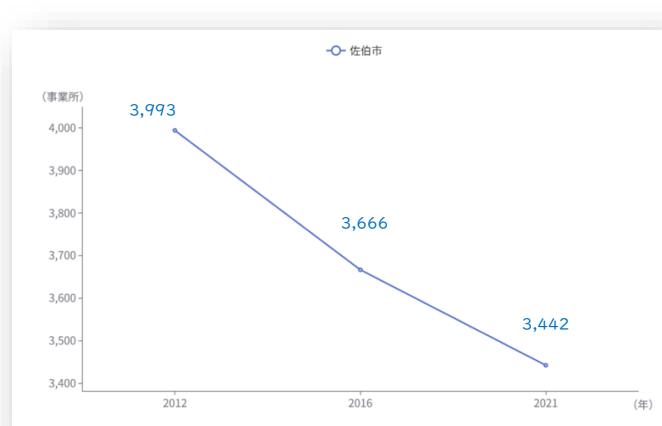
産業構造



*産業構造マップ→産業構造分析→産業構成(事業所数)

事業所数(事業所単位) 大分類 (2021年)

業種ごとの事業所数を上位順に示したグラフである。もっとも多いのは「卸売業,小売業」の875事業所で、全体の25.4%を占めている。その後「宿泊業,飲食サービス業」の405事業所の11.8%が続く。

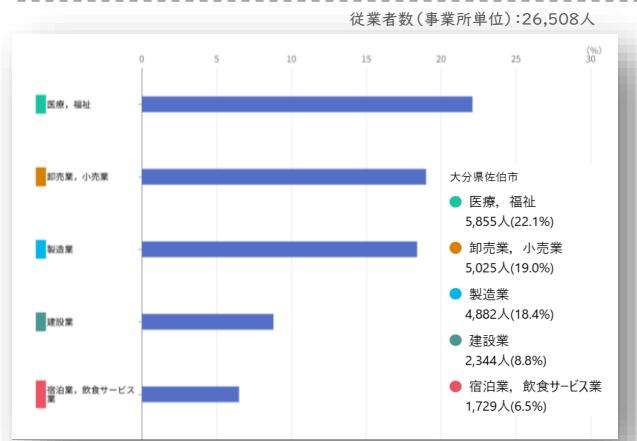


*産業構造マップ→産業構造分析→推移(事業所数)

事業所数の推移 (2021年)

事業所数の推移を見る。

2021年は3,442事業所であり、5年前の2016年は3,666事業所だったので、比較すると6.1%減少している。



*産業構造マップ→産業構造分析→産業構成(従業員数)

従業者数 (2021年)

業種ごとの従業者数を上位順に示したグラフである。もっと多いのは「医療,福祉」の5,855人で、全体22.1%を占めている。その後「卸売業,小売業」の5,025人の19.0%が続く。



*産業構造マップ→産業構造分析→推移(従業員数)

従業者数の推移 (2021年)

従業者数の推移を見る。

2021年は26,508人、5年前の2016年は27,191人だったので、比較すると2.5%減少している。また、2012年と比較すると6.3%減少している。



地域内産業の構成割合 (2018年)

佐伯市の生産額を指標に産業の構成割合を全国および大分県と比較したグラフである。3次産業の割合が58.5%であり、全国平均に近い。一方、2次産業の割合は、35.5%と全国および大分県平均に比べて低い。

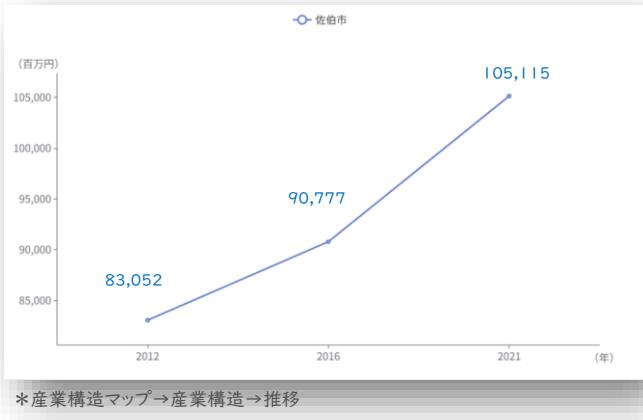
*1次産業…農業、林業、漁業など

*2次産業…製造業、建設業、工業など

*3次産業…商業、金融業、医療・福祉・教育などのサービス業や、外食産業・情報通信産業など

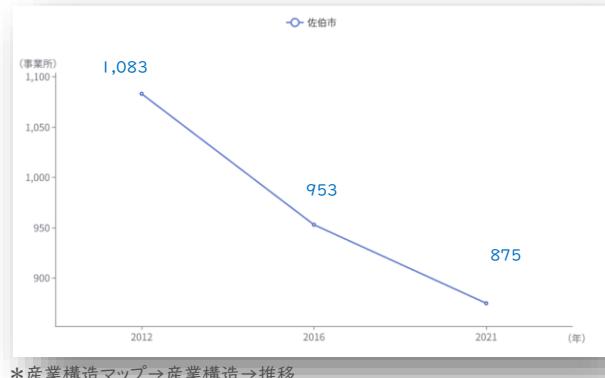
*地域経済循環マップ→生産分析→地域産業の構造

小売業・卸売業



売上高(小売業・卸売業)の推移 (2021年)

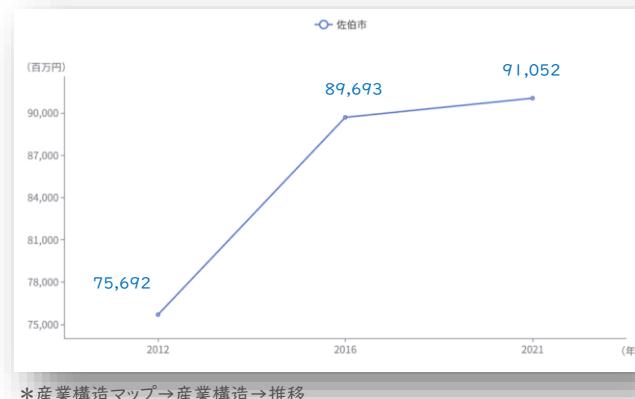
小売業・卸売業の売上高の推移を示したグラフである。2021年の売上高は105,115百万円である。9年前の2012年と比較すると83,052百万円なので、26.6%増である。「地域の現地消費+地場產品流通+卸売・流通チャネルの最適化」という複数要素が複合的に働き、相対的に売上高が伸びやすい土壤にあったことが要因として考えられる。



事業所数(小売業・卸売業)の推移 (2021年)

小売業・卸売業の事業所数の推移を示したグラフである。2021年の事業所数は875事業所、2016年は953事業所であり、2016年と比較すると、8.2%減となっている。

製造業

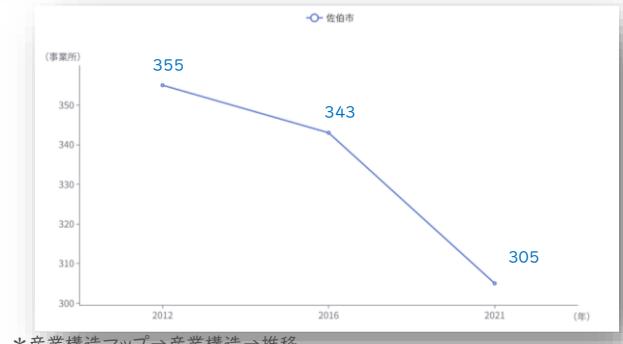


売上高(製造業)の推移 (2021年)

製造業の売上高の推移を示したグラフである。2021年の売上高は、91,052百万円である。2012年から2016年は18.5%増、2016年から2021年は1.5%増である。2016年以降は国内外のコスト・競争・構造変化、人手の問題、そして産業全体の成熟や国際競争圧により、伸びが鈍化または頭打ちになった」という構造変化による環境要因の影響が大きかったと考えられる。

事業所数(製造業)の推移 (2021年)

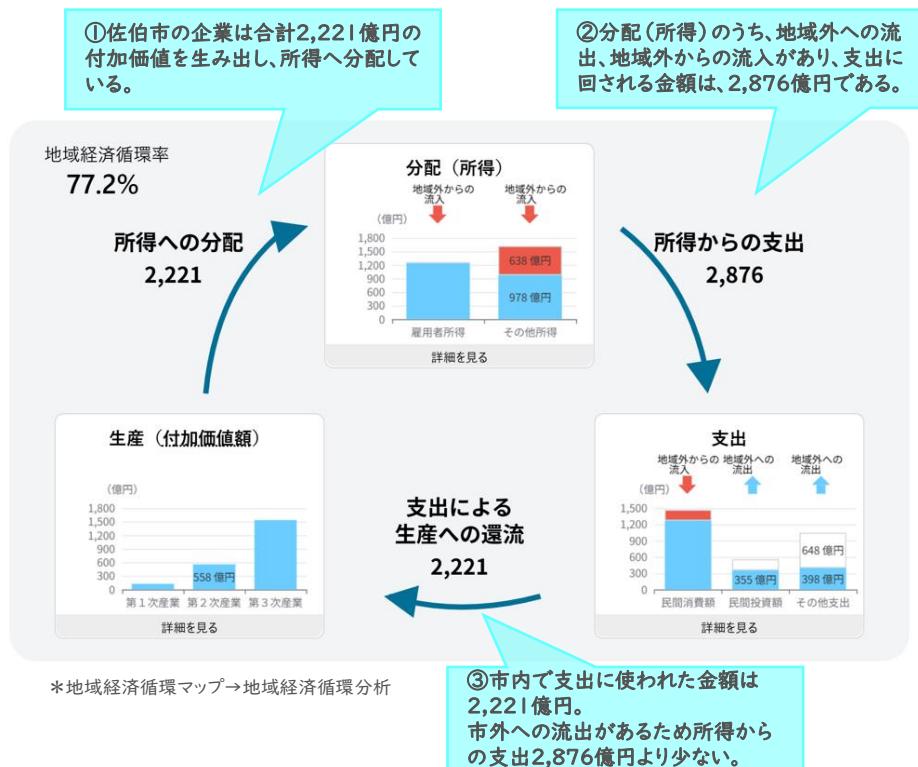
製造業の事業所数の推移を示したグラフである。2021年の事業所数は305事業所、2016年は343事業所であり、2016年と比較すると、11.1%減となっている。



地域経済循環

地域経済循環図 (2018年)

地域内企業の経済活動を通じて生産された付加価値は、労働者や企業の所得として分配され、消費や投資として支出されて、再び地域内企業に還流する。この流れを示したものが地域経済循環図である。



付加価値額の構造分析 (付加価値額順/2021年)

X軸に従業者数、Y軸に労働生産性で表される付加価値額(面積)のチャートである。付加価値額の要因が、労働生産性と従業者数のどちらの影響によるものなのかを把握する。佐伯市では、「医療・福祉」の付加価値額がもっとも大きく、「製造業」、「卸売業・小売業」の順に続く。

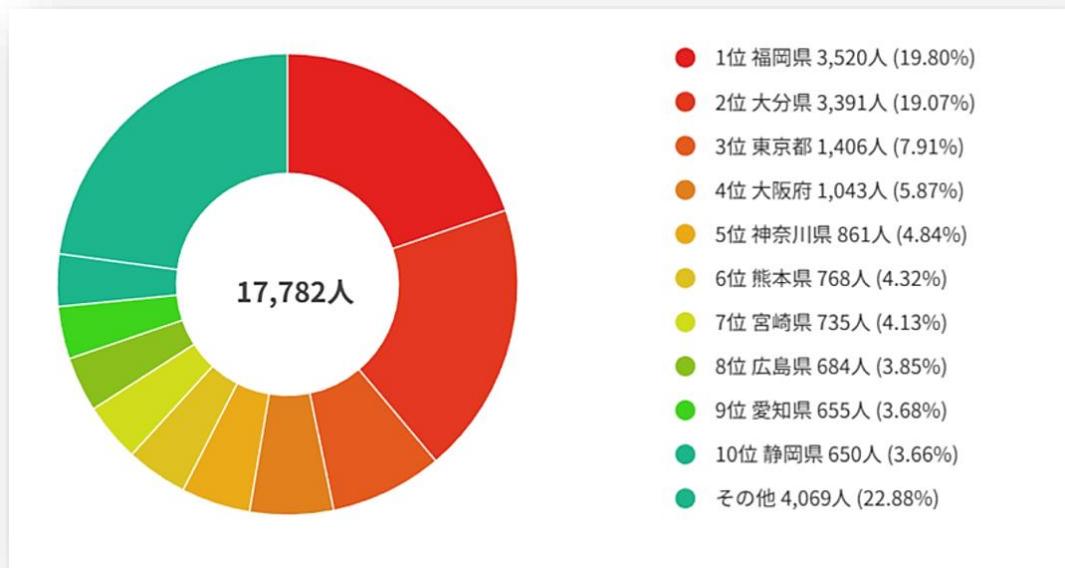


* 地域産業マップ → 産業構造分析 → 付加価値額の構造分析

観光

居住都道府県別の延べ宿泊者数（日本人）の構成割合（2024年）

居住都道府県別の延べ宿泊者数（日本人）の構成割合を示したグラフである。福岡県が19.80%ともっとも多く、大分県の19.07%、東京都の7.91%が続く。

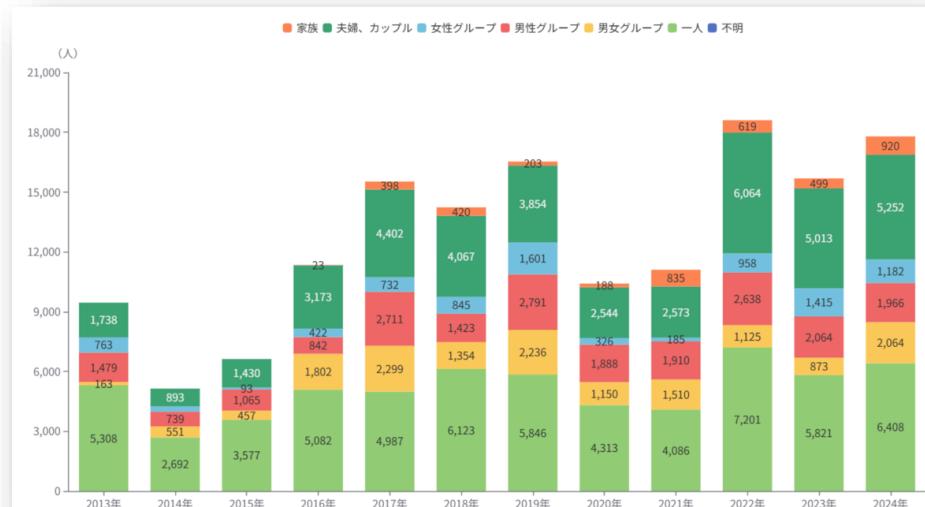


*観光マップ→宿泊者分析→居住別都道府県別

属性別の延べ宿泊者数（総数）の推移

延べ宿泊者数の推移を形態別に示したグラフである。

2024年では、もっと多いのは、「一人」の6,408人、その後、「夫婦、カップル」の5,252人、「男女グループ」の2,064人と続く。



*観光マップ→宿泊者分析→属性別に見る

発行:佐伯商工会議所

Tel: 0876-0844 大分県佐伯市向島1-10-1
TEL: 0972-22-1550 FAX: 0972-24-1419
URL: <https://saikicci.or.jp/>

